

経済・金融 フラッシュ

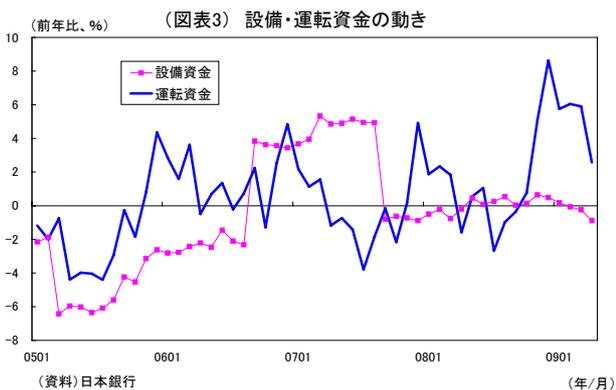
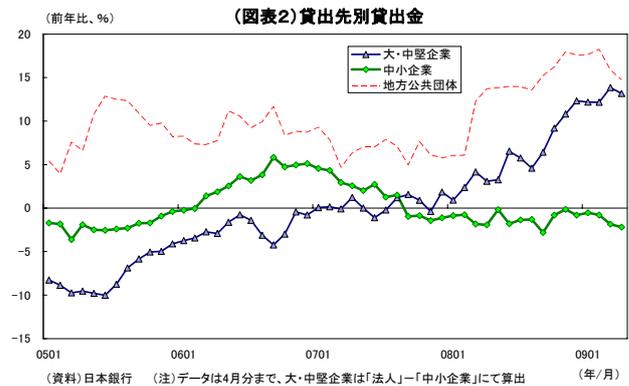
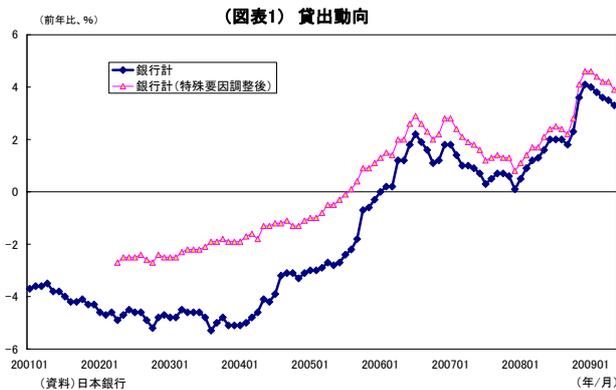
5月マネー関連： 銀行貸出は伸び率鈍化が続く

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志

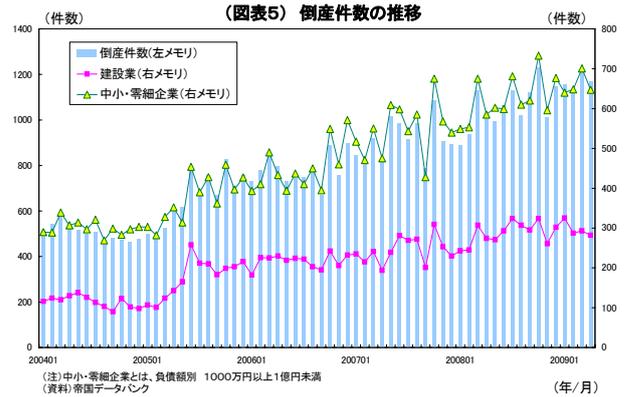
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向： 5ヶ月連続で伸び率が縮小

貸出・資金吸収動向等によると、5月の銀行総貸出(平残)の伸び率は前年比 3.3%と 2008年12月(4.1%)をピークとして5ヶ月連続で伸び率が縮小した。景気低迷に伴って設備資金需要が減少しているほか、CP・社債市場の機能が回復しており、貸出需要が頭打ちになってきている。(図表1～3)



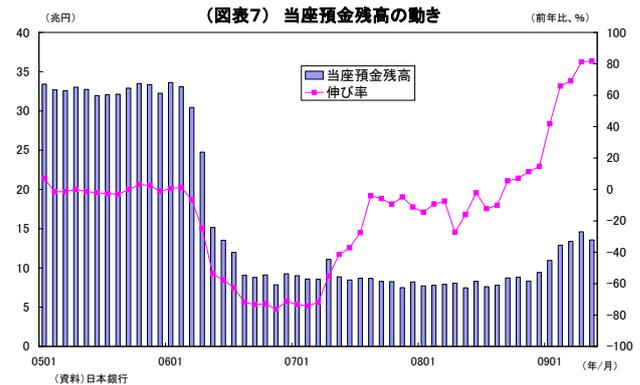
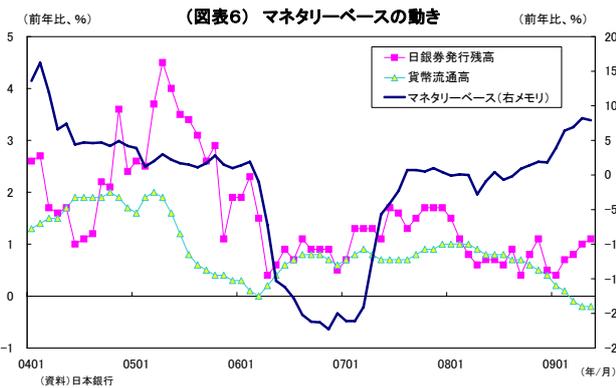
なお、従来より減少が続いてきた中小企業向け貸出については5月も引き続き前年比マイナスとなった。資金繰りが特に逼迫する年度末を越え、政府の緊急保証制度の利用は足元やや落ち着きが見られるが、倒産件数は増加傾向にあり、中小企業の資金繰りは依然厳しい状況が続いているとみられる。(図表4, 5)



2. マネタリーベース：日銀の大規模資金供給を反映し、前年水準を大きく上回る

5月のマネタリーベースは、前年同月比7.9%増加と5ヶ月ぶりに伸び率が縮小したが、4月の同8.2%に続いて前年の水準を大きく上回った。(図表6)

引き続き日銀が短期市場に資金を潤沢に供給しており、日銀当座預金残高が前年比81.7%増と大幅に増加したことが要因である。(図表7)



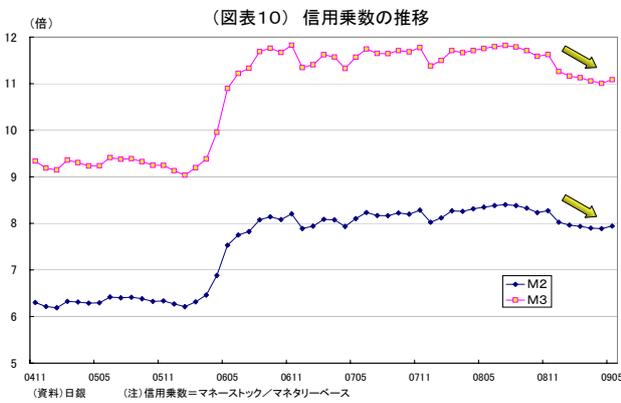
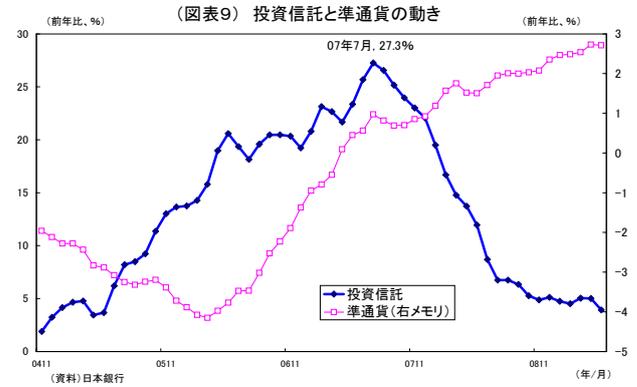
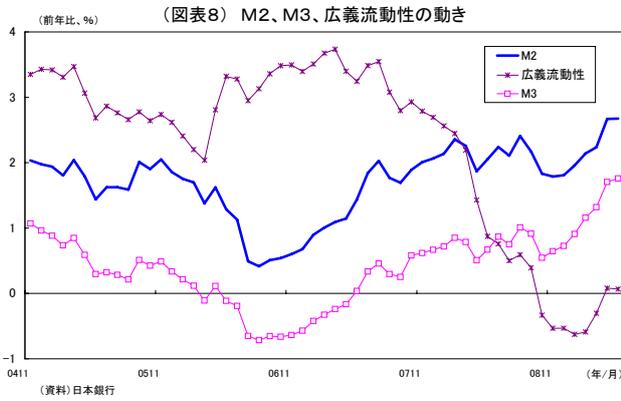
3. マネーストック：マネーは増勢、リスク回避の動きが続く

M2(現金、国内銀行などの預金)は4月に続いて前年比2.7%増、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同1.8%増(7ヶ月連続で伸び率上昇)、これに信託などを含めた広義流動性も4月以降伸び率マイナスを解消している(図表8)。定額給付金の支払いによる現預金増加の影響もあったようだ。

投信の伸び率がリーマンショック以降5%前後に低迷する一方で、定期預金など準通貨の伸びは拡大を続けており、これまで同様、リスク回避目的による安全資産へのシフトの動きが継続している(図表9)。

一方、マネーストックをマネタリーベースで除した信用乗数(日銀が供給した資金の何倍が経済全体に出回ったかを示す)の長期推移を見ると、M2で見た場合、M3で見た場合ともにここ数ヶ月は低下傾向にある(図表10)。これまで銀行貸出は大企業向けを中心に増勢を続けてきたものの、一方で日銀当座預金に留まっている資金も大きく、信用創造は日銀による資金供給の増加ペースを

下回ってきた。銀行が自己資本規制の影響や貸倒リスクへの配慮から選別的に融資を行ってきた結果と考えられ、不況時の円滑なマネーストック増加には銀行の自己資本対策が重要であることを示している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。